

福井県産蟻類短報

奥野 宏*

福井県（嶺南地域）で注目すべき数種の蟻の生息が認められたので報告する。

報告にあたり標本の同定をいただいた栃木県今市高校・園部力雄氏に厚くお礼を申し上げます。

1. *Pheidole nodus* Fr. Smith オオズアカアリ

本種は、日本海岸側では出雲以西に生息されているといわれているが、昨年の調査で敦賀市立石岬でこの働蟻・兵隊十数頭を採集した。働蟻体長 2.5 mm～3.0 mm, 赤褐色、頭部のよく発達した兵蟻が存在する種である。

本県には、近縁種のアズマオオズアカアリ *P. fervida* Fr. Smith. が広く分布しているが、オオズは、アズマよりやや大型であり、後腹柄節が腹柄節より短いという特徴があり区別される。
(Fig. 1)

この事実によると、本種の日本海岸側の北限は大巾に修正されるようである。

2. *Smithistruma rostrataeformis* Brown. アカチビウロコアリ

敦賀市松原公園内の松の朽木（雌蟻・5頭）および敦賀市池の河内の道端の朽木の下（雌蟻3頭）より採集。

体長 2.0 mm～2.3 mm の赤褐色の蟻。ウロコアリ類は腹柄節の後部に白色の海綿状の附属物や頭楯のヘリや触角の柄節に鱗状の毛をつける。特にウロコアリ近縁種との区別は頭部の大顎、頭楯の形状、頭部の立毛の状態などにより決められる。

本種は南西日本に数ヶ所生息地が確認されているが（園部），日本海側の採集は初記録。(Fig. 2・4)

3. *Camponotus yessensis* Teranishi. ケブカクロオオアリ

クロオオアリ *C. japonicus* Mayr. に酷似するが体表に白い長毛を持ち、体全体に黒色の光沢が強い。三方町虫谷で採集。

この種は、今庄町大河内でも生息を確認している。深山系の種。(Fig. 3)

4. *Polyergus samurai* Yano. サムライアリ

クロヤマアリよりやや大型、大顎は大きく鎌状をなしている。雌蟻および雄蟻の羽根は蠟状白色を示し、普通の半透明のものと区別ができる。

* 福井県南条郡今庄中学校

本種は奴隸狩りをする蟻として有名，7～8月しばしば数条の隊列をなして奴隸狩りに出かけ，クロヤマアリの巣を見ると怒濤の如く巣内に侵入し，クロヤマアリの成蟻，終令期の幼虫を巣に持ち帰る。

羽蟻飛翔期と奴隸狩り以外は巣内から出ないため，生息を認めにくい種である。

池の河内・青葉山で生息を確認されている。他地域にも広く分布しているものと思われる。
(Fig. 5, 7, 8)

5. *Amblyopone silvestrii* (Wheeler) ノコギリハリアリ

働き蟻は3.2mm位の赤褐色の細長い蟻，大顎の内側がするどく鋸状の歯型をしている。働き蟻は複眼は小さく，朽木の下，石の下などに単独に生息していることが多い。(Fig. 6)

三方町梅丈ヶ岳，敦賀市乗鞍岳。

6. *Camponotus nipponensis* Santschi. ケブカツヤオオアリ

樹上生活の大型種，体長3.5～5.0mmで変異が大きい。肢は強い褐色を呈し，胸部背面に長毛が多い。福井県外では本種の生息記録は非常に少ないが，県内では山麓(海拔50～300m)のところに普通に見られる。

Plate

Fig. 1 オオズアカアリの兵蟻，頭部がよく発達している。

Fig. 2 アカチビウロコアリの雌蟻

Fig. 3 ケブカクロオオアリの働き蟻，体表に白い長毛

Fig. 4 アカチビウロコアリの頭部

Fig. 5 サムライアリの雌蟻，羽根が白色

Fig. 6 ノコギリハリアリの雌蟻頭部

Fig. 7 サムライアリの働き蟻

Fig. 8 サムライアリ働き蟻の鎌状大顎

